



労働政策研究報告書 No. 180

2015

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究

—経歴分析を中心として—

労働政策研究・研修機構

壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究

—経歴分析を中心として—

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

ま え が き

いわゆる非正規雇用労働者の雇用の安定、処遇の向上を図る動きとして、2007年および2014年の「パートタイム労働法」の改正、2012年の「労働者派遣法」の改正および第189回国会（常会）に上程された改正案、2012年の労働契約法の改正（有期労働契約関連）など、近年相次いでいる雇用・就業形態ごとの立法政策があげられる。

他方で、雇用・就業形態の枠にとらわれない、対象者層別の対策も欠かせない。昨今、力が注がれているのが、バブル経済崩壊後の「就職氷河期」において、非正規雇用労働者として働くことになった若年者に対する、その後の支援施策である。

しかし、若年非正規雇用労働者の増加が問題視されてから、すでに20年以上が経ち、「就職氷河期」と呼ばれた時期に学校を卒業した者も、いまや40歳前後となっている。そして現実を見ると、もはや若年とは呼べない、「壮年」と呼ぶべき年齢層の非正規雇用労働者が増加している。これら壮年非正規雇用労働者は、生活上の負担が大きくなること、同年代の正社員との賃金格差が大きくなること、正社員への登用・転職の可能性が若年期と比べて高くなることなどから、若年非正規雇用労働者よりも、仕事と生活の両面で大きな課題に直面しやすいと予想される。

そこで、労働政策研究・研修機構（JILPT）では、プロジェクト研究「非正規労働者施策等戦略的労働・雇用政策のあり方に関する調査研究」のサブテーマである「正規・非正規の多様な働き方に関する調査研究」の一環として、「壮年非正規労働者の働き方と意識に関する研究」に取り組むこととした。同研究では、個人ヒアリング調査に基づく資料シリーズ『壮年期の非正規労働——個人ヒアリング調査から——』（2013年9月）、全国アンケート調査に基づく労働政策研究報告書『壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究——現状分析を中心として——』（2014年5月）等を刊行している。本報告書は、引き続き全国アンケート調査の分析に取り組み、壮年非正規雇用労働者の仕事と生活の現状、壮年期に非正規雇用労働者となるに至る原因、そこからキャリアアップするための条件を分析したものである。調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。

本報告書が、政策担当者をはじめ、企業経営者、人事担当者の参考となり、非正規雇用労働者として働く人々の就業環境の改善につながれば幸いである。

2015年9月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野 和夫

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆箇所
たかはし こうじ 高橋 康二	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第1～3章、第6章、 第9章、第13～14章
いけだ しんごう 池田 心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第4章
ほり はるひこ 堀 春彦	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第5章
ふくい やすたか 福井 康貴	東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教	第7章、第12章
り せいが 李 青雅	労働政策研究・研修機構 アシスタント・フェロー	第8章
もりやま ともひこ 森山 智彦	下関市立大学経済学部 特任教員	第10章
こばやし とおる 小林 徹	労働政策研究・研修機構 研究員	第11章

※全体の編集は、高橋康二が担当した。

プロジェクト研究サブテーマ「正規・非正規の多様な働き方に関する調査研究」 「壮年非正規労働者の働き方と意識に関する研究」研究会メンバー

(2015年6月末時点)

あさお ゆたか 浅尾 裕	労働政策研究・研修機構 特任研究員
たはら たかあき 田原 孝明	労働政策研究・研修機構 統括研究員
おの あきこ 小野 晶子	労働政策研究・研修機構 主任研究員
ほり はるひこ 堀 春彦	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
いけだ しんごう 池田 心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
たかはし こうじ 高橋 康二	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
こばやし とおる 小林 徹	労働政策研究・研修機構 研究員
り せいが 李 青雅	労働政策研究・研修機構 アシスタント・フェロー
くろかわ 黒川すみれ	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員
もりやま ともひこ 森山 智彦	下関市立大学経済学部 特任教員
ふくい やすたか 福井 康貴	東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教

目 次

まえがき

執筆担当者

目次

分析編 1

第1章 序論	3
第1節 問題関心	3
第2節 研究の全体像と本報告書の位置づけ	10
第3節 本報告書の概要	14

<第1部 現状分析（第2章～第5章）>

第2章 壮年非正規雇用労働者の仕事と生活の現状 —総論(1)—	29
第1節 はじめに	29
第2節 基本属性、職場と仕事	29
第3節 労働条件	34
第4節 生活の状況	35
第5節 非正規雇用労働者の意識と行動	37
第6節 小括	40

第3章 壮年の不本意非正規雇用労働者	43
第1節 はじめに	43
第2節 基本属性と過去キャリア	45
第3節 職場と仕事	48
第4節 仕事に対する意識	52
第5節 生活の現状	55
第6節 将来へ向けた行動	58
第7節 おわりに	59

第4章 壮年非正規雇用労働者の生活満足度を高める要因 —働き方の問題を中心に—	63
第1節 はじめに	63
第2節 壮年非正規雇用労働者の経済状況と生活満足度	64

第3節	生活環境と生活満足度	65
第4節	生活満足度を高める働き方	70
第5節	まとめ	75
第5章	過去の就業行動が非正規雇用労働者の年収に及ぼす影響	77
第1節	非正規雇用労働者の年収分布	77
第2節	非正規雇用労働者の賃金関数の推計結果	83
第3節	正社員としての就業経験が現在の年収に及ぼす影響	87
第4節	職種経験年数が現在の年収に及ぼす影響	90
第5節	どのような属性を持つ非正規雇用労働者の年収が高いのか？	100
第6節	まとめ	103
<第Ⅱ部 原因分析（第6章～第8章）>		
第6章	壮年非正規雇用労働者の過去キャリア —総論(2)—	113
第1節	はじめに	113
第2節	最終学歴と初職	113
第3節	過去の就業形態	117
第4節	過去の職種、業種、企業規模	124
第5節	小括	138
第7章	男性労働者における非正規雇用への転職	
	—若年期と壮年期の違いに着目して—	154
第1節	問題意識と先行研究	154
第2節	分析枠組み	155
第3節	分析	158
第4節	おわりに	167
第8章	仕事の原因の病気・けがと退職後の就業状況	170
第1節	はじめに	170
第2節	「病気・けが」の実態と現在の就業状況	172
第3節	「病気・けが」が就業に与える影響	176
第4節	非正規就労の理由	181
第5節	おわりに	184

<第Ⅲ部 キャリアアップに向けて（第9章～第13章）>

第9章 壮年期の正規転換 —総論(3)—	189
第1節 はじめに	189
第2節 正規転換の発生確率	189
第3節 正規転換の発生状況	192
第4節 小括	200
第10章 非正規雇用から正規雇用への移行 —内部登用と転職の比較—	207
第1節 はじめに	207
第2節 先行研究	208
第3節 方法	211
第4節 分析結果	215
第5節 まとめ、考察	230
第11章 外部労働市場を通じた正規就業移行タイミング	235
第1節 問題意識	235
第2節 先行研究と本章で行う分析	236
第3節 分析	240
第4節 まとめ	245
第12章 入社経路が転職に果たす役割の検討 —職業経歴データを用いて—	247
第1節 はじめに	247
第2節 先行研究と分析枠組み	247
第3節 全就業者に関する分析	252
第4節 非正規雇用に関する分析	264
第5節 おわりに	273
第13章 正規雇用への転換による収入変化	277
第1節 はじめに	277
第2節 データと変数	277
第3節 収入変化の実態	278
第4節 収入変化の規定要因	280
第5節 小括	284

第 14 章 結論	287
第 1 節 含意	287
第 2 節 残された課題	292
資料編（「職業キャリアと働き方に関するアンケート」調査票）	295